

2010年10月29日

東京ガス株式会社

2011年3月期 第2四半期決算説明会 主なQ&A

Q1：工業用ガス販売量ガス販売量実績は回復してきているのか？通期ではどのように見通しているのか？

A1：4月－7月の工業用のガス販売量については前年同期を上回ったが、8－9月については前年同期を下回った。

下半期見通しについては個別のヒアリング結果を積み上げているが、個々のお客さまは景気の不透明感などからやや慎重な見方をされており、通期見通しもそれらを反映したものとなっている。

短期的には為替動向、景気動向などにより工業用ガス販売量は増減するが、中長期的には、低炭素社会の実現に向けて天然ガスへの燃料転換が進むと考えている。

Q2：主に家庭用分野におけるオール電化の状況について聞きたい。

A2：電力会社のオール電化攻勢の強まりには危機感を有しており、既築のお客さまの脱落防止、新築電化率の抑制に努めている。オール電化対抗は、地元密着営業体制として昨年10月に体制構築を完了したライフバルを中心に進めており、経営トップ自らがライフバルの現場を回ってその効果について確認しているが、少しずつ成果が出ていると実感している。

Q3：原料確保、上流権益の観点から、さらに投資を進めていくのか？

A3：原料については、直近の案件では、クイーンズランドカーティスプロジェクトのC BM調達交渉を進めている。新しいプロジェクトについては、我々にとって適切な条件を備えたプロジェクトかどうかを見極めて判断し、魅力的な案件であれば投資を躊躇しない。財務面の目標数値との関係においては、中期経営計画では、D/Eレシオの目標数値を最終年度（2013年度）で0.69としているが、この目標を墨守するのではなく、魅力的な投資があれば弾力的に考えたい。

Q4：株主還元策、資本政策についてお考えをお聞きしたい。

A4：現在の総分配性向60%という方針を愚直に守っていく方針であり、自社株取得・消却によりROEを改善し、資本効率を高めていく。また、今中期経営計画（2009年度～2013年度）では、設備投資、投融資、社債の償還資金などの必要資金については、営業キャッシュフローなどの自己資金のほか、社債など外部からの借入金を活用して調達する予定としており、現時点で増資による資金調達は計画していない。

以上